



堺化学工業株式会社

堺化学工業株式会社

2021年3月期決算説明会

2021年5月25日

イベント概要

[企業名]	堺化学工業株式会社		
[企業 ID]	4078		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2021 年 3 月期決算説明会		
[決算期]	2020 年度 通期		
[日程]	2021 年 5 月 25 日		
[ページ数]	30		
[時間]	15:30 – 16:23 (合計：53 分、登壇：28 分、質疑応答：25 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]			
[出席人数]			
[登壇者]	2 名		
	代表取締役社長	矢部	正昭 (以下、矢部)
	常務取締役 IR 担当	中西	敦也 (以下、中西)

登壇

司会：定刻となりました。本日は、お忙しい中、堺化学工業株式会社、2021年3月期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。ただ今より、説明会を開催いたします。

今回は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、会場での開催ではなく、Web上でのライブ形式の説明会とさせていただきます。

本日の予定でございますが、初めに社長の矢部より、5月11日に発生しました福島県いわき市にございます、湯本工場の爆発・火災事故につきまして、お詫びとご説明を申し上げます。

お詫び

2021年5月11日に発生しました、弊社湯本工場での爆発・火災事故におきまして、負傷された方々にお見舞い申し上げるとともに、近隣住民の皆様、関係ご当局の皆様、株主の皆様、お客様をはじめとする多くの方々に多大なご迷惑、ご心配をおかけしましたことに深くお詫び申し上げます。

事故の原因につきましては、今後調査を進めていきます。今後、二度とこのような事故を起こさないよう、再発防止に取り組み、信頼回復に努めてまいります。

堺化学工業株式会社
代表取締役社長 矢部 正昭



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

2

湯本工場の爆発・火災事故について

5月11日に発生しました湯本工場の爆発・火災事故につきまして、5月25日現在の状況をご説明いたします。

1. 発生場所

福島県いわき市常磐岩ヶ岡町沢目1番地の1
湯本工場 亜鉛末製造工場（赤線部分）

2. 人的被害・物的損害

- ・協力会社従業員4名 重軽傷
- ・亜鉛末工場建屋の側面および屋根ならびに工場内設備が損傷しており、詳細は調査中。
- ・同工場にある酸化亜鉛工場（工業用）は影響なし。



亜鉛末は主に防錆塗料に使われています。
当社では湯本工場でのみ製造していました。
2021年3月期の亜鉛末の年間売上高は13億円です。

3. 業績に与える影響

現在精査中。

現在、工場の火災および煙は収まりましたが、工場内に残存する亜鉛末の温度低下を待っている状況であり、消防署による鎮火宣言には至っておりません。

なお、鎮火後の動きとしては、関係当局と原因調査を進める一方、専門家も含めた事故調査委員会を発足させ、事故原因究明と再発防止徹底に努めてまいります。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

3

矢部：矢部でございます。

まず初めに、5月11日に当社湯本工場で発生いたしました爆発・火災事故により、負傷された方々にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い回復を心よりお祈り申し上げます。この事故により、近隣住民の皆様、関係当局の皆様、お客様、そして株主の皆様をはじめ、多くの方々に多大なご迷惑、ご心配をおかけしておりますことを、心からお詫び申し上げます。

事故原因については、消防、警察の調査に協力するとともに、当社で第三者の専門家を含む事故調査委員会を発足させ、徹底的に調査を行い、二度とこのような事故を起こさないよう再発防止に取り組み、皆様の信頼回復に努めてまいります。

なお、本事故による業績への影響は現在精査中でありまして、判明次第、速やかに公表させていただきますので、よろしく願いいたします。

司会：以上、社長より、ご挨拶とご報告を申し上げます。

では、決算説明に入ります。

IRを担当する、常務取締役の中西より、2021年3月期の概要、その後、代表取締役社長の矢部より、本年3月に開示しました減損損失の計上および2022年3月期の業績予想についてご説明申し上げます。最後に、質疑応答の時間を設けており、Zoomウェビナーの挙手機能を利用し、皆様のご質問をお受けいたします。なお、終了時間は16時半を予定しております。

それでは、中西常務、お願いいたします。

2021年3月期業績概要（対前年）						
金額単位：百万円						
	2020.3		2021.3		増減	
		売上高比		売上高比		
売上高	87,177	100.0%	84,918	100.0%	▲ 2,258	▲ 2.6%
営業利益	4,015	4.6%	4,304	5.1%	289	7.2%
経常利益	4,208	4.8%	4,012	4.7%	▲ 196	▲ 4.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,535	2.9%	▲ 2,803	▲ 3.3%	▲ 5,339	-

<p>◆ 売上高 有機化学品および衛生材料は堅調に推移したものの、上半期に新型コロナウイルスの影響で酸化チタン・亜鉛製品、樹脂添加剤等が低調に推移し、減収となった。</p>	<p>◆ 利益 製造コスト低減や全社にわたる経費節減に努め、操業休止費用を営業外で計上した結果、営業利益は増益となった。しかし、70億円の減損損失を計上したため、当期純利益は赤字となった。</p> <p>※営業外費用として、操業休止費用543百万円を計上しています。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

7

中西：中西でございます。よろしくお願いたします。

まず、2021年3月期の業績概要を、対前年の数字を中心にご説明申し上げます。

まず、売上高でございますが、前期比マイナス22億5,800万円、2.6%減となり、849億1,800万円となりました。

営業利益でございますが、前期比プラス2億8,900万円、7.2%増となり、43億400万円となりました。ただし、下の注で書いてございますとおり、営業外費用として操業休止費用5億4,300万円を計上しておりますので、実質的には減益でございます。

経常利益でございますが、前期比マイナス1億9,600万円、40億1,200万円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益でございますが、これは後ほどご説明いたしますけれども、70億円強の減損損失を計上したため、前期比ではマイナス53億3,900万円、28億300万円の純損失となりました。

売上高でございますが、有機化学品および衛生材料等、堅調な商材もございましたが、上半期の新型コロナウイルスの影響で、酸化チタン、亜鉛製品、樹脂添加剤等、多くの商材が低調に推移いたしました。期の後半で一部挽回したことはございますが、大きな減収となっております。

利益面につきましては、製造コストの低減や全社にわたる経費削減に努めましたが、やはり売上高のマイナスをカバーできず、実質的には営業利益は減益となっております。

		金額単位：百万円			
		2020.3	2021.3	増減	
化学事業	売上高	78,555	76,821	▲1,733	▲2.2%
	営業利益	5,614	5,731	117	2.1%
医療事業	売上高	8,621	8,096	▲525	▲6.1%
	営業利益	594	452	▲141	▲23.8%
全社費用	売上高	—	—	—	—
	本社部門費	▲2,193	▲1,880	—	—
合計	売上高	87,177	84,918	▲2,258	▲2.6%
	営業利益	4,015	4,304	289	7.2%

それでは、セグメント別の業績についてご報告いたします。

まず、化学事業でございますが、売上高は前期比マイナス17億3,300万円、2.2%減となり、768億2,100万円。営業利益はプラス1億1,700万円の57億3,100万円となっておりますが、先ほどご説明申し上げましたとおり、操業休止費用の大半がこの化学事業のところによりますことから、実質的には営業利益は減益となります。

医療事業でございますが、これは後ほど少し詳しくご説明いたしますが、売上高はマイナス5億2,500万円の80億9,600万円、営業利益はマイナス1億4,100万円の4億5,200万円となりました。

全社費用でございますが、本社部門関連の費用としまして18億8,000万円。これは、前期と比べますと約3億円のマイナスとなっております。全社的な経費削減の努力という結果でございます。

合計は、先ほどと、全社の合計と一緒にございますので、割愛させていただきます。



それでは、化学事業のサブセグメントごとにご説明をいたします。

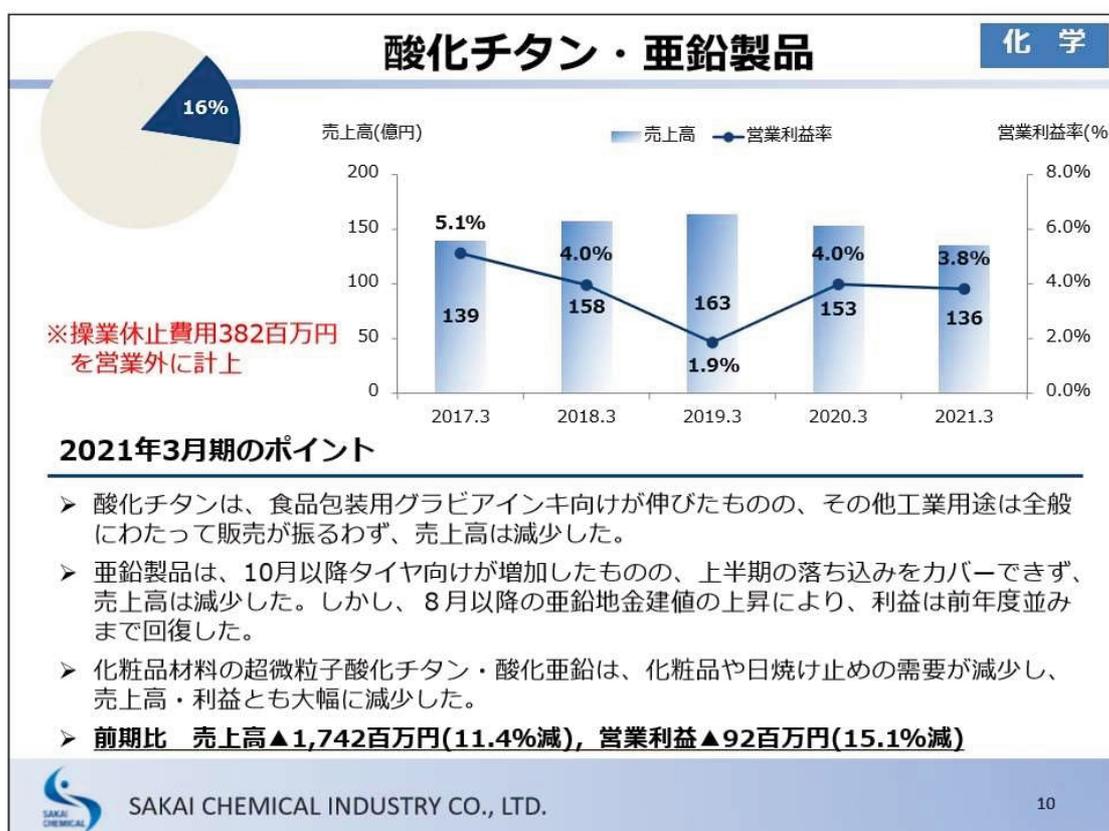
まず、電子材料でございます。

売上高は前期比プラス12億2,400万円、97億2,300万円でございます。ただし、営業利益は前期比マイナス9,400万円、2,300万円の営業利益となっております。特に第4四半期の挽回により、何とか年度で営業利益にプラスに持っていった状況でございます。

誘電体材料は 5G の基地局向けやパソコン等、通信機器向けが堅調に推移するとともに、上半期に低調であった車載向けが 10 月以降回復いたしました。

誘電体につきましても、下半期から自動車向けも回復した結果、売上高は増加いたしました。残念ながら増強した設備に対する販売計画自体は大きく下回り、結果的に減価償却負担が増加いたしました。利益は減少しております。

上のグラフのとおり、この 3 年にわたって営業利益率が減少しております。



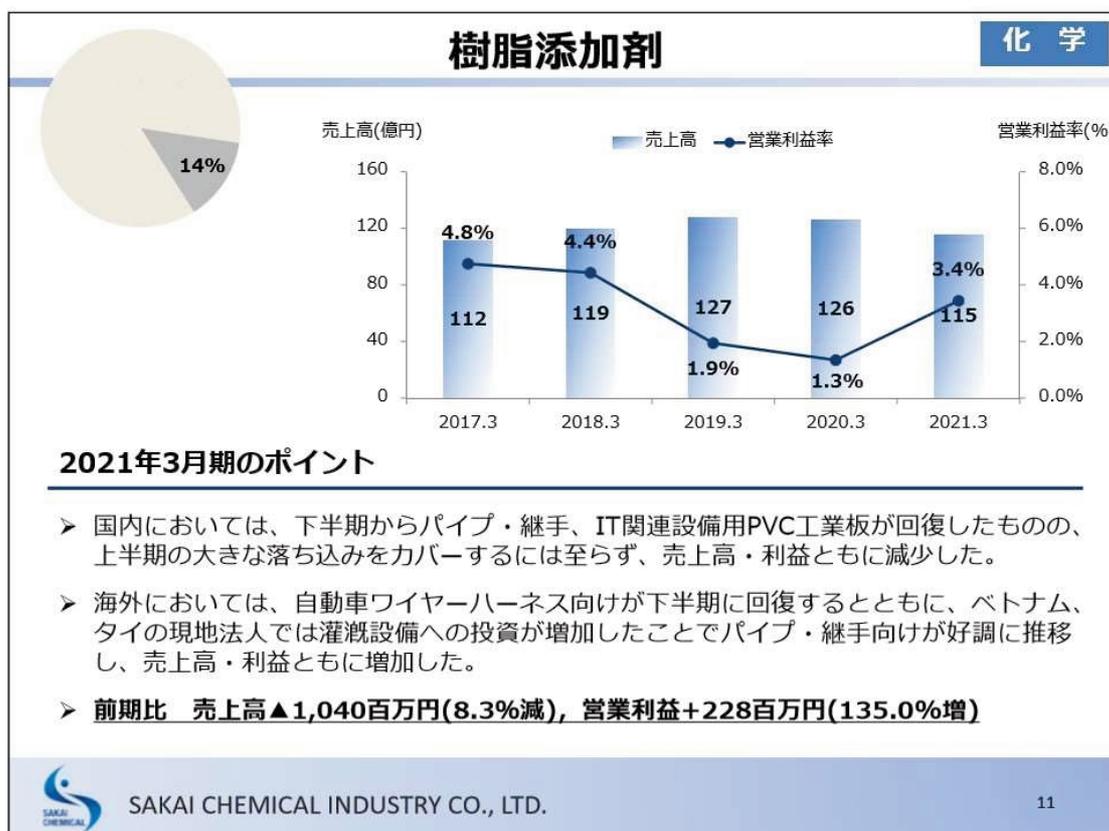
次に、酸化チタン・亜鉛製品でございます。

売上高は前期比マイナス 17 億 4,200 万円、135 億 6,300 万円でございます。営業利益につきましても前期比マイナス 9,200 万円、5 億 1,800 万円でございますが、こちらも先ほど申し上げましたとおり、操業休止費用が、特に酸化チタンの工程で発生しておりますので、営業利益の減益幅はここに書いてございます数字より、実態としてはもう少し大きなマイナスとなります。

酸化チタンは、食品包装用グラビアインキ向けが伸びたものの、その他の工業用途は全般にわたって販売が振るわず、売上高は減少しております。

亜鉛製品につきましては、10月以降タイヤ向けが増加いたしました。上半期の落ち込みをカバーできず、売上高は減少しております。しかしながら、8月以降の亜鉛地金の建値の上昇により、利益は前年度並みまで回復しております。

化粧品材料の超微粒子酸化チタン・酸化亜鉛でございますが、化粧品や日焼け止めの需要が減少し、売上高・利益とも大幅に減少いたしました。やはり、新型コロナウイルスの影響による全般的な外出控えやインバウンドの減少が大きく影響いたしました。



次に、樹脂添加剤でございます。

売上高は前期比マイナス10億4,000万円、115億4,300万円でございます。営業利益はプラス2億2,800万円、3億9,700万円となりました。減収ではございましたが、増益という結果になっております。

国内におきましては、下半期からパイプ・継手、それからIT関連設備用のPVC工業板等が回復したものの、上半期の大きな落ち込みをカバーするには至らず、売上高・利益ともに減少しております。

ただし、海外におきまして、自動車ワイヤーハーネス向けの安定剤が下半期に回復するとともに、ベトナム、タイの現地法人で灌漑施設への投資が増加したことでパイプ・継手向けが好調に推移いたしまして、売上高・利益とも増加しております。

上のグラフを見ていただければお分かりのとおり、2020年3月期を底に、2021年3月期は利益率がかなり上昇いたしております。

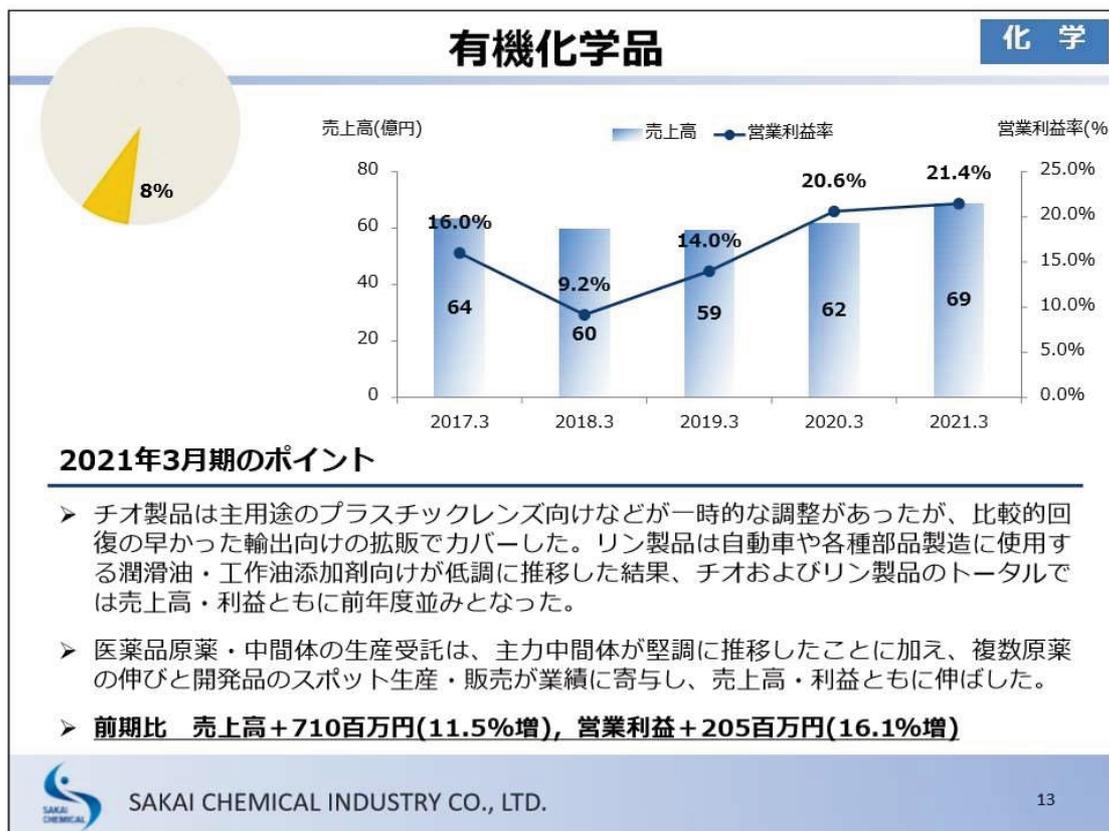


次に、衛生材料でございます。

売上高は前期比プラス11億8,400万円の92億5,400万円、営業利益はプラス2億6,600万円の4億4,000万円となっております。

こちらのサブセグメントは、主に私どもの関係会社でございます堺商事、それから堺商事のインドネシア現地法人、S&Sという現地法人がございますが、そちらの業績を反映しているものでございます。

新型コロナウイルスの影響でマスク関連の需要が拡大したほか、インドネシア現地法人で生産する通気性フィルム等が、紙おむつ向けの堅調さと医療関連向けの特需に支えられ、販売が好調に推移いたしました。結果的に大きな増収増益という結果となっております。

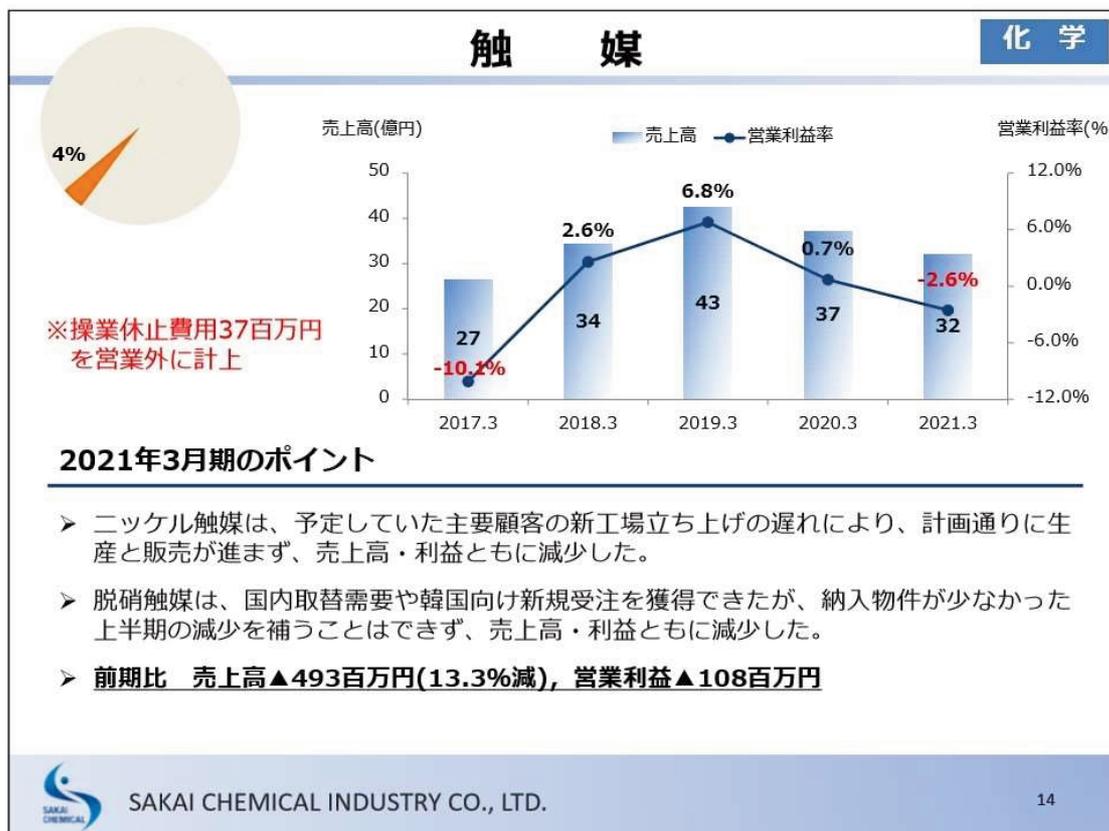


次に、有機化学品でございます。

こちらにも新型コロナウイルスの影響を受けることなく、非常に好調に推移いたしました。売上高は前期比プラス7億1,000万円の68億8,200万円、営業利益はプラス2億500万円の14億7,600万円。大幅な増収増益となっております。

チオ製品でございますが、主用途のプラスチックレンズ向けなどは一時的な調整はございましたが、比較的回復が早かった輸出向けの拡販でカバーいたしました。リン製品は、自動車や各種部品製造に使用する潤滑油・工作油添加剤向けが低調に推移いたしました。結果的にチオおよびリン製品のトータルでは売上高・利益ともに前年並みを堅持いたしました。

医薬品の原薬・中間体の生産受託でございますが、主力の中間体が堅調に推移したことに加え、複数の原薬の伸びと開発品のスポット生産・販売が業績に寄与し、売上高・利益ともに大きく伸ばしております。

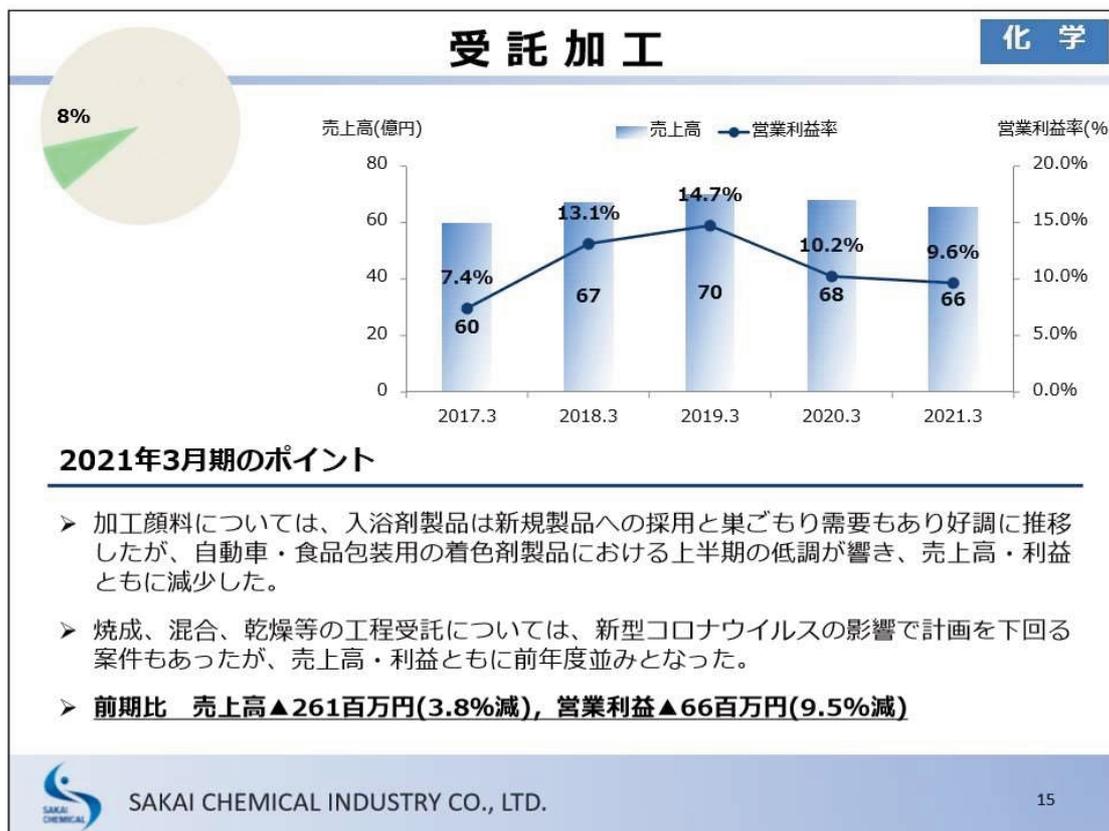


次に、触媒でございます。

売上高は前期比マイナス4億9,300万円の32億1,000万円、営業利益は前期比マイナス1億800万円の8,200万円の赤字となっております。

ニッケル触媒は、予定しておりました主要顧客の新工場の立ち上げの遅れにより、計画どおりに生産と販売が進まず、売上高・利益ともに減少しております。

脱硝触媒は、国内の取替需要や韓国向け新規受注を獲得いたしましたけれども、納入物件自体が少なかった上半期の減少を補うことができず、残念ながら売上高・利益ともに減少しております。



次に、受託加工でございます。

売上高は前期比マイナス2億6,100万円の65億5,000万円、営業利益は前期比マイナス6,600万円の6億3,200万円という結果でございます。

加工顔料につきましては、入浴剤製品は新規製品への採用と巣ごもり需要もあり好調に推移いたしました。新型コロナウイルスの影響を受けました自動車、それから一部食品包装用の着色剤製品における低調が響き、売上高・利益ともに減少しております。

焼成、混合、乾燥等の工程受託につきましては、一部新型コロナウイルスの影響で計画を下回るものございましたが、売上高・利益とも前年並みとキープいたしました。



最後に、医療事業でございます。

先ほど冒頭のセグメントのところで、売上高、利益はご説明いたしましたが、やはりこのセクターも、特に前半、新型コロナウイルスの影響を強く受けております。

特に主力製品のひとつでございますバリウム造影剤でございますが、新型コロナウイルスの影響で受診者が減少した結果、売上高・利益とも減少しております。

「アルロイドG」でございますが、後発品メーカーの撤退により当社品の需要回復はあったものの、薬価引き下げによる影響が大きく、売上高・利益ともに減少いたしました。

内視鏡洗浄消毒器は、コロナ支援キャンペーンを打つなど積極的な販促活動を進めました結果、機器本体の販売台数およびメンテナンス契約数を伸ばしましたが、残念ながら施術数の停滞により関連する消耗品の販売が低調に推移したため、売上高・利益ともに減少いたしました。

かぜ薬「改源」等、一般用医薬品でございますが、うがい薬等の売上が伸びましたが、風邪の罹患者減少により主力のかぜ薬が低調に推移したことから、売上高・利益ともに減少しております。

過去4年間続けて上昇傾向にあったものが、残念ながら前期は少し低下する形となりました。

キャッシュ・フロー

金額単位：百万円

	2020.3	2021.3	増 減
期首の現金残高	11,175	9,148	▲ 2,026
税金等調整前当期純利益	3,999	▲ 2,037	▲ 6,037
減価償却費	3,686	4,243	556
その他	▲ 1,231	5,620	6,851
営業活動によるキャッシュ・フロー（営業CF）	6,454	7,826	1,372
設備の支払額	▲ 8,403	▲ 9,567	▲ 1,164
その他	▲ 21	2,145	2,166
投資活動によるキャッシュ・フロー（投資CF）	▲ 8,424	▲ 7,422	1,002
財務活動によるキャッシュ・フロー（財務CF）	▲ 68	1,667	1,735
期末の現金残高	9,148	11,153	2,004

◆ 営業CF

純利益は減少したものの、棚卸資産の圧縮により、増加した。

◆ 投資CF

電子材料および化粧品材料などの設備増強により支出が増加した一方、政策保有株式の売却により収入も増加した。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

17

続きまして、キャッシュ・フローについてご説明いたします。

まず、税金等調整前当期純利益は、前期と比較しましても大きく低下いたしました。ただし、減価償却費、減損によるマイナス、これらノンキャッシュアイテムが多かったこと、それと棚卸資産削減等でのキャッシュ創出にも注力したことから、営業キャッシュ・フローは改善いたしました。

また、高水準の設備投資は継続いたしましたが、政策保有株式の売却による投資キャッシュ・フローの創出、それから金融機関借入による財務キャッシュ・フローにより期末の現金残高は前年度プラスとなり、手元現金に関しましては少し余裕を持たせた形になってございます。

営業キャッシュ・フローから投資キャッシュ・フローを引きましたフリー・キャッシュ・フローは、2021年度3月期においてプラスになってございます。

今期でございますが、設備投資が一巡いたしましたため、従前に比べ投資キャッシュ・フローのマイナス幅は大きく改善する見込みでございます。

続きまして、減損損失に関しましては、矢部社長よりご説明いたします。

2021年3月期 減損損失計上について

- 電子材料や化粧品材料を中心に戦略的投資と位置づけ、積極的に設備増強を行ってきた。
- 化粧品材料はコロナ禍によって需要が落ち込み、電子材料は生産設備の立ち上げが計画通りに進まず、収益性が低下していると判断。
- 2021年3月期決算において、特別損失として減損損失(7,041百万円)を計上

セグメント	サブセグメント	減損金額 (百万円)	備考
化学	電子材料	3,581	誘電体材料、誘電体
化学	酸化チタン・亜鉛製品	3,117	化粧品材料
化学	その他	302	
医療		38	
合計		7,041	



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

19

矢部：それでは、矢部がご説明させていただきます。

既に開示しておりますが、第4四半期で約70億円の減損処理を実施いたしました。内訳の主なものは、電子材料関連で35億8,100万円、化粧品材料で31億1,700万円です。これは、いずれも中期経営計画の成長戦略に基づいた設備の投資でございました。

電子材料は、誘電体、すなわちチタン酸バリウムと、誘電体材料、すなわち高純度炭酸バリウムの製造設備であります。前期末の段階で計画の投資採算との乖離が大きいことから、減損に至っております。

誘電体の設備は、高付加価値製品用の新生産ラインであります。一部顧客承認が取れておりますが、需要拡大のスピードが私たちの想定を下回っておりまして、稼働率が期待どおりに上がらないのが要因であります。

誘電体材料につきましては、米中貿易摩擦やコロナ禍にあり一時的に顧客の需要予測が不透明となり、また、需要回復についても時間がかかる見込みとなり、工場完成、稼働開始時期の遅延を余儀なくされました。このことが減損の主因となっております。

減損を実施いたしました。誘電体、誘電体材料については原状回復が顕著でございまして、早い段階で業績に寄与できるように取り組んでまいります。

次に、化粧品材料については、新工場が完成したものの、コロナ禍の外出制限やインバウンドの需要の激減により日焼け止めの需要が減少し、既存設備で供給可能な出荷しか現状見込めないため、新設備の減損に踏み切りました。本格回復には2年程度を要するかと見ておりましたが、足元は米国や中国向けの出荷回復が期待できる状況に変わりつつあり、ワクチン普及による国内および海外の早期本格的な市場回復を期待するところであります。

2022年3月期業績予想						
金額単位：百万円						
	2021.3		2022.3			
	通期実績	対前期比	中間予想	対前年同期比	通期予想	対前期比
売上高	84,918	▲2.6%	38,700	▲3.8%	76,300	▲10.1%
営業利益	4,304	7.2%	2,800	75.3%	4,700	9.2%
経常利益	4,012	▲4.7%	2,700	121.4%	5,100	27.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	▲2,803	—	1,800	222.5%	4,300	—

◆ 2022年3月期は、増益を予想。収益認識基準の変更により、売上高は減少する見込み。

◆ 化学事業は、化粧品材料は本格回復までは時間がかかるとみているが、電子材料は市況もほぼ回復し、EV化や自動運転化が進行中の車載用途、5Gが普及しつつある通信用途でハイエンド製品を中心に拡販が実り始めている。有機化学品や衛生材料は堅調を維持すると見ている。

◆ 医療事業は、薬価改定に影響されない医療機器関連や有望な新規ビジネスに注力し、稼ぐ力の向上に取り組む。

◆ 新型コロナによって景気低迷が継続する事態となった場合は、幅広い用途に使用されている酸化チタンやバリウム製品等がマイナスの影響を受ける可能性がある。

 SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD. 21

次に、2022年3月期の業績予想につきましてご説明いたします。

今期の業績予想の売上高は、新収益基準適用により減収となっておりますが、旧基準に照らし合わせますと、中間期・通期とも増収を予想しております。

また、営業利益は、中間で前年同期比プラス75.3%の28億円、通期ではプラス9.2%の47億円。一部関係会社で上期に収益が集中するため、連結ベースでも上期型になると予想しております。

経常利益につきましては、下期に政策保有株式の売却と営業外の利益を見込んでおります。

2022年3月期業績予想



次に、セグメント別の業績予測につきましてご説明いたします。

コロナ禍が穏やかに収束に向かうことを想定し、化学セグメントでは電子材料ビジネスにおいて、大きな生産調整等がないことを前提として、同セグメントを中心に堅調に推移するものと見込んでおります。

一方、医療セグメントにおきましては、今年も薬価の切り下げの影響もあり、業績の回復は限定的と見ております。

主要項目推移・予想

金額単位：百万円

	2017.3	2018.3	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3
売上高	83,938	87,223	89,541	87,177	84,918	76,300
営業利益	4,551	4,690	4,404	4,015	4,304	4,700
経常利益	4,290	4,279	4,553	4,208	4,012	5,100
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,037	2,329	3,606	2,535	▲ 2,803	4,300

設備投資	4,636	3,771	6,891	8,403	9,567	5,000
減価償却費	2,877	3,005	3,189	3,686	4,243	4,100
研究開発費	2,909	3,217	2,951	2,898	2,487	2,500



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

23

次に、主要項目の推移・予想につきましてご説明いたします。

今年度、設備投資につきましては50億円を計画しており、これは昨年11月開催の中間決算説明会から数字は変わっておりません。

減価償却につきましては41億円の見込みで、昨年の中間決算時には48億円で公表しておりました。減損の実施により、減価償却費が約7億円マイナスとなりますので、41億円と見込んでおります。

研究開発費につきましては、横ばいであります。

株主還元

■ 総還元性向推移



剰余金の配当につきまして当社は、株主の皆様への安定した利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置づけたうえで、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保の充実を図るとともに利益動向や経営環境を勘案し、年2回の配当を実施することを基本方針としています。

当事業年度につきましては当期純損失を計上したため、誠に遺憾ではございますが、期末配当を無配とさせていただきます。この結果、2020年12月に実施済みの中間配当金1株当たり15円のみとなり、年間配当金は1株当たり15円となりました。当社といたしましては、復配させるべく業績の早期回復に努めてまいります。

2022年3月期については、中間20円、期末20円の年間40円で実施する予定です。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

24

最後に、株主還元につきましてご説明いたします。

前期は、ご説明いたしましたとおり、第4四半期に多額の減損損失の計上により当期純損失となりましたことから、誠に申し訳ないですが、期末配当につきましては見送りさせていただきました。今後も業績の回復、向上に努め、総還元性向30%の当社の基本方針に従って配当してまいります。

今期につきましては、中間、期末配当各20円、計40円の年間配当を予定しております。

私どもからの説明につきましては、以上でございます。

質疑応答

司会：それでは、これより質疑応答に移ります。

順番が来ましたら、ご自身の画面でのミュート設定を解除した上で、ご質問を口頭にてお願いいたします。なお、音声でのご質問が難しい場合には、Q&A 欄にご質問内容をご記入ください。音声での質疑応答が終了した後に、投稿されたご質問の中から運営側で選択してご回答申し上げます。

それでは、ご質問のある方は、ご視聴画面の手を挙げるボタンを押してください。

質問者 1：よろしくお願いたします。3点ほどお伺いしたいです。

まず1点目が、2022年3月期の営業利益の計画47億円ですが、前年比で4億円増えるということで、セグメントの数字は先ほど拝見いたしました。別の切り口で、例えば売上増のインパクトや固定費（減価償却費は少し減るということかもしれませんけど）、原料高など、増減益の分解があったらいただきたいです。

矢部：一つは、2021年3月期は営業外に出しているものが約5億円あります。それと、減損しましたために、7億円の減価償却の負担が減ることがございます。また、堺化学本体の業績が回復する一方で関係会社につきましては業績が少し落ちるものと見込んでおり、これぐらいの営業利益がプラスになるという見立てでございます。

質問者 1：本体で回復するのは、こういったサブセグメントになりますでしょうか。

矢部：先ほどもご説明しましたように、電子材料の関係につきましては、かなり利益が回復するものと見ております。

質問者 1：酸化チタンや亜鉛製品はいかがですか。

矢部：酸化チタン、亜鉛製品につきましても、昨年ほど悪くはないと見ております。同セグメントの中に入っております化粧品につきましても、昨年よりは浮上すると見ております。

質問者 1：分かりました。

二つ目です。まさに電子材料のところですが、後半にかなり回復しているというお話もありまして、恐らく第4四半期はそこそこの利益を出しているのではないかなと推測しております。第3と比べると、かなり損益の出方は変わっているのではないかと思うのですが、この電子材料が昨年度の第4四半期に改善した理由を教えてくださいたいです。

また、この2022年3月期について、今の状況からいくと、例えば2021年3月期の第4四半期、掛ける3倍なのか4倍なのかありますけど、そういったレベル感、あるいはそれをさらに超えるようなレベル感も無理ではないような気がします。この電子材料の2022年3月期をどう見られておられるのか、ここに関しても教えてください。

矢部：おっしゃるとおりで、第4四半期につきましては、営業利益がかなりプラスになっております。2021年3月期の電子材料セグメントで申しますと、第2四半期が底で、第3四半期でかなり回復し、第4四半期につきましては営業利益で相当のプラスで、第2四半期のマイナスを取り戻したという状況になっております。

2022年3月期の見込みにつきましては、当初の見込みから現状では上振れしている状況になっております。この辺りはなかなか難しいところがありますが、昨年よりは売上で2割ぐらい増える可能性があると思っております。

質問者1：2021年3月期の第4四半期、黒字になった一番大きな理由は何ですか。これは一過性要因が何か入っているということですか。それとも、これは実力ベースでしょうか。

矢部：これはそうですね。

中西：これは誘電体材料、誘電体ともに、特に誘電体材料のほうが大きいですが、第4四半期に入ってかなりの急回復をしたという結果でございます。

質問者1：それが一過性ではなくて、2022年3月期にかけてさらに伸びていくということでしょうか。先ほどのお話ですと、20%ぐらい今年増える可能性があるということですが。

中西：はい。その流れは引き継いでおります。

質問者1：今、前提としてはどれぐらいで織り込まれているのですか。20%増で計画は組まれているのですか。

中西：これは誘電体と、誘電体材料と少し様相は違うのですが、年度ベースですね、前年度と今年度の年度年度で比べますと、数量ベースで誘電体、誘電体材料ともに約30%の増加を見込んでおります。

質問者1：これはどちらもですか。

中西：はい。

質問者1：先ほど20%増えるというのは。

中西：私が申し上げたのは年度年度ですので、昨年の上期は非常に低かったですから、年度年度で言うと30%ぐらいの増加と見ています。

質問者1：これは今年の見込みということでしょうか。

中西：はい。そうでございます。

質問者1：ご計画にはこの30%増を織り込まれているということでしょうか。

中西：はい。

質問者1：そうですね。分かりました。30%売上が増えてもこの利益という理解ですか。

中西：そうですね。これは、先ほど社長がご説明申し上げましたとおり、去年の営業利益というよりは、5億円強の操業休止費用が営業外に出ておりますので、そういう意味では持ち上がった分プラス5億円ぐらいのインパクトがございます。そういう意味では、やはり営業利益ベースでもかなりの増益というのが今年の見立てになってございます。

質問者1：なるほど。そうですね。ただ、電子材料は100億円ぐらいの売上高があると思いますので、30%増えると30億円売上が増えるという計算になりますが、その増収効果が入っても、これぐらいということですね。

中西：そうです。

質問者1：分かりました。最後、酸化チタンに関してですけども、国内で値上げがいろいろ出てきていると思いますが、状況がどうなっているのでしょうか。あと、今年、数量とか単価に関して、酸化チタンはどういう見方をされておられるのか、ここに関して教えてください。以上です。

矢部：現在値上げ交渉中でございます。ご存じのとおり、中国の景気も回復してきておりまして、輸入品等も少し値上げの状況等が入ってきておりますし、日本の市場にはどちらかというところあまり出さなくてもいい環境になってきているようです。時期は6月1日からということで打ち出しており、多少のずれはあるかもしれませんが、ある程度の値上げはできると考えております。

質問者1：数量等は、今年どれぐらいの伸びを見込まれておられるのですか。特に汎用の酸化チタンですね（化粧品を除いた部分）。

矢部：おおよそ従来のレベルに戻ると見ております。2021年3月期は、やはり新型コロナウイルスの影響で落ち込みましたけども、それが従来のレベルに戻ると考えております。年間でいうと2万4,000トンとか、そういうレベルになると思います。

質問者1：分かりました。どうもありがとうございました。

司会：他にご質問はいかがでございましょうか。

質問者 2：まずは、有機化学品と触媒のところをお聞きしたいです。有機化学品はいろんな製品群があると思いますが、どの製品群が 2021 年 3 月期から 2022 年 3 月期にかけてはプラスマイナスという感じでご覧になっているのでしょうか。あと、全体として増益になるのでしょうか。

矢部：一つは、プラスチックのメガネレンズ用です。これは顧客側で増設するようなお話を聞いておりますので、最低プラスになるのではないかなと見ております。

もう 1 つの医薬品の原薬・中間体につきましては、大体この 1 年間の計画がほぼ出ておまして、現状の計画では昨年よりは少し落ちる計画になっております。

質問者 2：トータルでは、プラスマイナスはあまりないという感じですか。

矢部：そうですね。それぐらいになるかと考えております。

質問者 2：上期に医薬品中間体が集中するとお聞きしましたが、これはかなりの落差になりますか。

矢部：そうですね。上期にかなり出て、下期は落ち込んでしまう感じです。ただし、スポット受注などもございますので、それを期待できるかも分かりませんが、今のところ何とも言えない状況であります。

質問者 2：ご計画だとかなり上期に偏っているという感じですね。

矢部：はい。

質問者 2：それから、触媒に関して、ニッケル触媒は、2021 年 3 月期は予定していたところが遅れたということですが、2022 年 3 月期はこれが計画上織り込まれているということになるのでしょうか。

矢部：大きいところが 2 社ございまして、1 社は、5 月は定修ですけども、6 月以降かなり数量が増える計画になっています。

もう 1 社の新しいプラントを立ち上げるところについては、最新の情報では、それも少しずつ計画が遅れていると聞いております。ただし、その分、既存の工場の使用量を増やしたいという話が来ておりますけども、当初の計画よりは、やはり少し下振れを覚悟しなければいけない状況であります。

質問者 2：そうしますと、その新しいプラント向けは、2022 年 3 月期ではなくて、2023 年 3 月期になりそうということですね。

矢部：2022年3月期の下期ぐらいから少しずつは出荷が始まると思いますけども、当初言われていたような急速に立ち上げをするということにはどうもならない状況であります。

質問者2：分かりました。あと、脱硝触媒はいかがですか。

矢部：脱硝につきましては、今年は輸出向けで大きな物件が決まっております、それなりに2022年3月期は寄与するものと見込んでおります。

質問者2：そうすると、両方とも2021年3月期よりも2022年3月期のほうが良いということですね。

矢部：そうですね。

質問者2：ただ、2019年3月期のような水準までは戻らないということでしょうか。

矢部：そうですね。

質問者2：分かりました。

中西：2019年3月期はちょっと特殊要因がございましたので。

質問者2：そうなんです。それから、医療事業のところですが、去年はちょうど年度初めが緊急事態宣言で、学校も行くなとか、会社にも来るなという状況でかなり影響を受けたと思います。新年度は同じく非常事態宣言ではありますが、体感でいうと電車に乗っている人は多いと感じており、バリウム造影剤は回復すると見ればいいのでしょうか。

矢部：新しい期が走りだしたところですけども、やはり多少の影響は受けているように聞いております。ただ、昨年ほどの落ち込みにはならないのではないと思っています。

もう一つは、OTC医薬品ですけども、やはり風邪等もひかないような状況ですので。

質問者2：1年中マスクしていますからね。

矢部：ええ。ちょっと売れ行きはよくないと聞いております。

質問者2：そうしますと、医療事業に関して言うと、全体ではマイナスのほうが大きいということですか。

矢部：2021年3月期よりは回復すると見込んでおりますけども、先ほども申しましたが、薬価の引き下げ影響も今年もあり、利益的には限定的な回復にとどまるのではないかなという予想でございます。

質問者 2：分かりました。

最後は新しい製品の開発状況で、特に誘電体でハイエンドのところの開発をやっていらっしゃると思いますが、こちらのお見通し、進捗状況はどうなっているのでしょうか。

矢部：前から申し上げているかと思いますが、1社については採用されまして、ただ、先方で使うアイテムを今、増やすことを検討していただいております。下期辺りから量が少し増えると見ております。もう1社につきましては、6月ぐらいから立ち上がるのではないかとということで聞いております。

ただし、これは最先端のハイエンドなものでございますので、多分小さなものに使われるということで、立ち上げについてはそんなに大きな量からではなくて、徐々にそういうものが広がっていくことを私どもは期待しております。

質問者 2：これは、いわゆる 5G とかエレキ系の最先端ということなのか、それとも車のほうの最先端という、どちら側が進んでいるのでしょうか。

矢部：今のところ小さなものに使われると聞いております。ただし、信頼性が非常に高いということも一方で聞いておりますので、将来それは自動車の信頼性の必要なところなどにも使われる可能性については非常に期待しております。

質問者 2：分かりました。私からは以上です。

司会：ありがとうございました。

質問者 3：衛生材料についてお聞きしたいのですが、2021年3月期は非常に好調だったと思いますが、2022年3月期の見通しをお聞かせください。あと、特に2022年3月期、引き続き好調な品目とか、あるいは2021年3月期の反動を受けそうな品目もあれば併せて教えてください。お願いします。

中西：衛生材料に関しましては、2021年3月期の好調をそのまま引き継ぐと見ております。少なくとも2022年3月期においては、まだ新型コロナウイルスの影響等も残っておりますので、期を通じて好調ということ予想しております。

ただし、インドネシアの現地法人は、稼働率としてはフルなところまで来ておりますので、ここから一段の大きなジャンプがあるかということ、伸びに関しては限定的ではございますが、現時点での好調さを少なくとも2022年3月期は続けていけるだろうと見込んでおります。

質問者 3：ありがとうございます。補足で1点お聞かせください。マスク関連製品の需要が拡大したとありますが、マスク関連のビジネスについて、御社は具体的にどのような展開をされていらっしゃるのか教えてください。

矢部：実はこれは商社的な活動ですけれども、不織布の輸出入ですね、そういうことを子会社の堺商事で行っています。

質問者 3：分かりました。マスクのビジネスの2022年3月期の見通しをお聞かせいただけますか。

矢部：一時、マスクが世界的に足りないということで、少々高くても買うという需要が生まれましたが、やはり今は少し落ち着いてきておりますので、先ほど中西が申しましたように、去年からさらにジャンプアップすることはないように思っております。

質問者 3：ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。では、挙手によるご質問は以上で、チャットによるご質問をいただいております。

足元の化粧品向け商品の販売状況はいかがですか。お客様の在庫状況はどう考えておられますかというご質問でございます。これにつきまして回答します。

矢部：やはり米国向け、中国向けなどについては、2021年3月期にかなり減っていたものが少し回復してきている状況です。ただし、国内については、2020年3月期のような勢いはまだないという状況です。

在庫状況につきましては、お客様もかなり絞っていたと思いますので、需要が回復すれば、そういう在庫をためるといった需要も併せて出てくるものと考えております。

司会：以上、ご回答申し上げました。それでは、これ以上のご質問はないようでございますので、今回の質疑応答は終了とさせていただきます。

以上で、堺化学工業株式会社、2021年3月期の決算説明会を終了いたします。本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。それでは、失礼いたします。

[了]

免責事項

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。

また、化学事業のサブセグメントの数値は任意で公表しているものであり、監査を受けておりませんので、参考値とご承知おきください。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。